

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



KAWASAKI CITY



平成26年6月16日（月）～平成26年6月22日（日）〔平成26年第25週〕の感染症発生状況

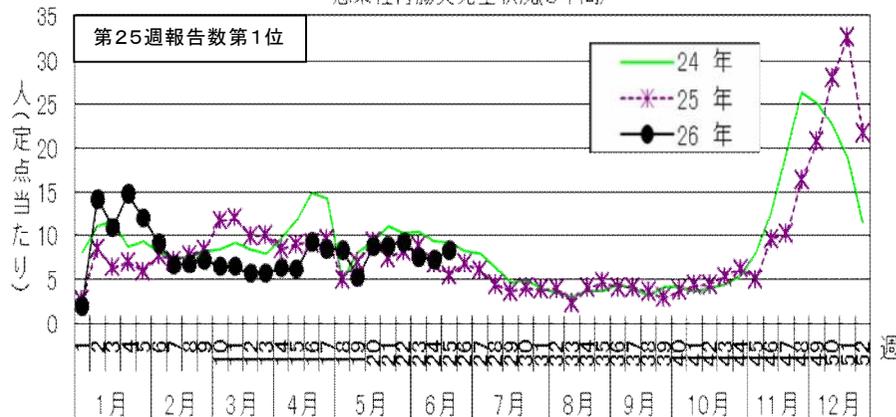
第25週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)ヘルパンギーナ 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。

感染性胃腸炎は定点当たり8.30人と前週（7.27）より患者報告数は増加し、例年より高いレベルで推移しています。

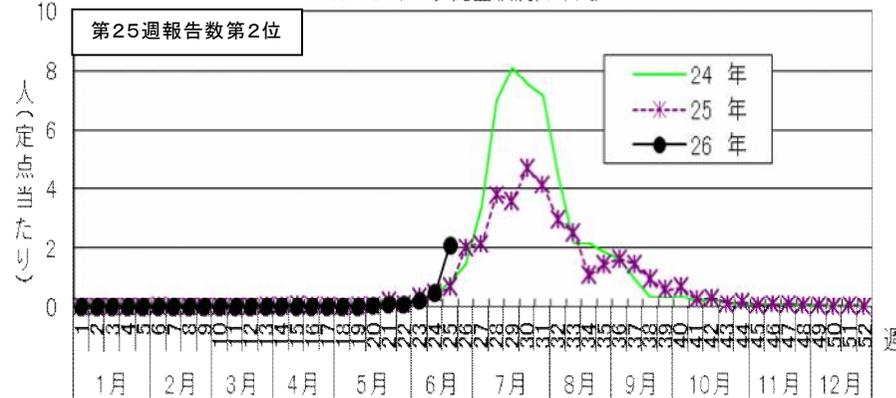
ヘルパンギーナは定点当たり2.09人と前週（0.48）より患者報告数は増加し、例年より高いレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり1.55人と前週（2.27）から患者報告数は減少し、例年より低いレベルで推移しています。

感染性胃腸炎発生状況(3年間)



ヘルパンギーナ発生状況(3年間)



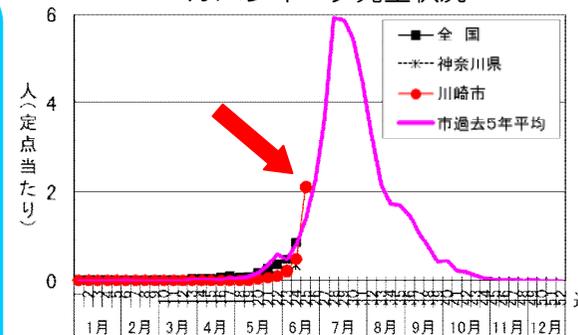
～流行の兆しか？ヘルパンギーナに注意！～

例年、夏に向けて「手足口病」「ヘルパンギーナ」「咽頭結膜熱」等の夏かぜが流行します。昨年は6月下旬から「手足口病」の報告数が増加しましたが、今年は「ヘルパンギーナ」の報告数が増加しています。7月末にかけて、さらに患者報告数が増えることが予測されますので、今後の予防対策が重要です。

ヘルパンギーナってどんな病気？

- **潜伏期間**：2～4日間
- **症状**：高熱（38～40℃）、咽頭痛（のどの痛み）、のどの奥に白い水疱性の粘膜炎
- **感染経路**：患者ののどからの分泌物や便から感染（飛沫感染・糞口感染）
※患者の便からは1か月ほどウイルスが出ている可能性があるため、患者のおむつを替えた後などは注意が必要
- **その他の特徴**
 - ・主に1～4歳の小児を中心に流行
 - ・一般に予後は良好だが、髄膜炎を発症し重症化することもある

ヘルパンギーナ発生状況



最も効果的な予防方法は「**手洗い**」です。特に便の取扱いには注意しましょう。
患者はのどの痛みにより十分な飲食ができなくなることもあるため、**水分補給**を心がけましょう。